

地滑り対策とアートが融合した山上のユートピア

国土庁（現国土交通省）、奈良県、室生村（現宇陀市）が事業主体として実施した過疎対策としてはじめた「むろうアートアルカディア計画」のシンボル公園整備として整備された 8 ヘクタールの公園。室生村を眼下にし、里山がつづくなだらかな山の中腹に位置している。この大規模プロジェクトは、1200 年前からの文化遺産である室生寺とその周辺に広がる里山の風景を災害から守る地滑り対策と地域振興とが一体となって、公共事業とアートを調和させ未来の文化遺産をめざすもの。

全体デザインは世界的な環境アーティスト、ダニ・カラヴァンにより、地滑り対策用の池、排水溝などが作品の 1 部として制作された。池に浮かぶ三つの嶋を取り囲む野外劇場があり、舞台としても活用されている。深い森に囲まれ、四季による自然のダイナミックな変化が楽しめる場所である。

完成までの過程では、「室生アートアルカディア計画」の策定から、公園の基本、実施設計、実施監理などに関わった。加えて、大規模な公共事業に組み込まれた事業であるために、アーティストをはじめ、国、県、村、企業、住民など多くの関係者との調整作業があり、長期にわたり地域との関係を確立しながらの業務となった。地滑り対策という公共事業にアートを導入した画期的なプロジェクトとして、アート関係者だけでなく、建築、土木、環境分野などから注目されている。

また廃坑になった学校の利活用、住民のワークショップ、シンポジウムの開催な多様な付帯活動を展開した。地域の食文化、植生、歴史などの地域資源について地域住民との検討を重ねるプロセスを重視し、住民による田植えやイベントの開催などを通じて、公園の維持管理がおこなわれている。

室生寺から山を登るという不便なアクセスであり、イベント時以外は入場数があまり伸びないという現状があるが、地元の人びとによって非常に細やかなメンテナンスが継続されている。